

# ガラス：芸術と科学

2016年11月16日(水) 14:45～18:00

人環棟地下会議室・無料

古来ガラスは、「可視光において透明である」という機能を意識・無意識に関わらず人類が利用してきた材料であり、装飾用芸術品、ビン、コップ、窓材、各酒グラスなどとして我々の生活に欠かせない古典的材料です。同時に現代技術の粋を極めた高純度ガラス光ファイバの開発は情報通信ネットワークを実現し、またイオウを主成分とする非酸化ガラスの開発がサーモグラフィに代表される「目に見えない赤外線可視化する」技術を可能にしています。ガラスは多くの物質と異なり原子構造が乱雑で、未だ科学的に解明されていない謎が多い物質でもあります。また古代工芸ガラスの美の謎を原子レベルで解明する努力もされています。

本セミナーでは、材料光物性、科学哲学、地域づくり、固体化学、アモルファス半導体、といった専門の全く異なる5人のエキスパートに登壇頂き、謎多きガラスの魅力に迫ります。

## －プログラム－

1. **"Venice artistic glass: a unique production sector combining art, science and history"**  
「ヴェネチア工芸ガラス：芸術、科学、歴史を融合したユニークな生産部門」  
Francesco GONELLA ( Ca'Foscari Univ. Venezia イタリア )
2. **"In the Light of Glass"** 「ガラスの光に包まれて」  
Rossella LUPACCHINI ( Univ. Bologna イタリア )
3. 「黒壁スクエアとガラスのまちづくり」  
笹原 司之 ( 株式会社黒壁 長浜 )
4. **"Glass to see beyond the visible"**  
「見えざるものを可視化するガラス」  
Jacques LUCAS ( Univ. Rennes フランス )
5. **"Puzzles of Glass"** 「ガラスのパズル」  
Gerhard FASOL ( Eurotechnology KK オーストリア )



主催：人環学際教育研究部

問い合わせ先：講演会担当 / 田部 勢津久 (tanabe.setsuhisa.4v@kyoto-u.ac.jp)